

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600096		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム武蔵ヶ丘 光ユニット		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北1丁目8-1		
自己評価作成日	令和5年3月8日	評価結果市町村受理日	令和5年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝礼に際に唱える「チーム力を高め、豊かな人間性と認知症介護のプロとしての高度な知識・技術をもって、ご利用者の尊厳を守り、希望に満ちた生活を送れるよう自立支援を推し進めます。」を念頭にご利用者が家庭的な雰囲気の中で共同生活を通して、毎日笑顔や笑い声が絶えず元気に暮らせるように職員一人一人が意識を持ちながらケアを心掛けています。残念ながら現在もコロナ感染対策として面会は、窓越し面会、リモート面会を継続しておりご家族には不自由な思いをおかけしているような状況です。運営推進会議をはじめ地域の方々との関りも同様な状況であります。その中でも、ご家族宛の定期的なお手紙に関しては、表情がわかりやすいように写真を多めに使うなどしながら、できるだけほっとして頂けるように努めています。平常時に戻ればご家族との交流の場を増やしたり、地域との繋がりを大切にし信頼して頂ける施設作りにも努めて行きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この地に開設して9年という経年の中で職員の移動は少ないものの、管理者の交替という変革期にあり、職員との関わりとともにコミュニケーションを強化し、職員は明るく、和気藹々としてケアに携わることで入居者が過しやすい環境としている。入居者が“らしく”今までの生活の沿線としての暮らしを継続させることが役目として行事で笑える環境を作り、“100歳まで頑張ってみます”との入居者の声も聞かれる等職員の関わり方の深さが表われている。管理者を中心にした「組織改革」に、“のんびり一緒に楽しみながら”を合い言葉として意欲ある職場作りとともに、集団ケアから個別ケアへと移行する段階に有り、コロナ感染症予防への緩和が、これまで通りの地域の中での生活拡充へ繋がる事と大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・安全で心地よい時間の提供」「ご利用者の人格尊重」「自由で自分らしくいられる介護の追及」の理念を持って毎朝、朝礼時には御社の経営理念を唱和し全職員理念の共有に努めている。	開設時よりの理念を継続し、唱和による意識強化に努めるなかで、管理者は職員との関わりやコミュニケーションの強化に努めている。入居者の“らしく”は、今までの生活の延長線として暮らしてもらう事や、職員は明るく和気藹々としてケアに取り組むことで入居者が過しやすい環境に生かせる等理念を具体的に捉えている。また、安全な生活は歩行能力の低下も見られるなかでどのようなケアをするか試行錯誤している部分もあるとしている。また、年度目標を立て、その実践に全員が心一つに取り組むホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策で訪問することや来ていただくことは行っていない状況。定期的な地区の除草作業へは参加している。	コロナ禍で地域の中でこれまで通りの地域との交流は出来ない状況にあるが、地区の除草活動等に出かける等地域の中の事業所として活動している。また、中学生の職場体験を受入れは、入居者との交流として生かされている。地域包括支援センターからボランティアとの関わりとしてサロンの再開に向けた相談や認知症カフェへの参加へも呼びかけられおり、今後に期待される。	社会資源の一つとして小学校に足を運んで見たり、地域交流室の有効活用等の検討による交流促進等に期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが終息し平常時に戻れば地域の方々を招いて敬老会等を開催する。また地域の催事やふれあいサロンなどに出向きご利用者との交流を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策で対面式での会議はなかなかできていないが、その間も書類配布を行っており情報交換に努めている。	コロナ禍により書面審議として入居者の状況や入退院、事故やひやり・はっと事例、行事報告や予定、職員会議等を記している。返信封筒を同封し、意見等も収集する体制としているが、意見等は出されていないように見受けられる。	来期より対面での開催に向け区長に相談されており、対面開催が可能となれば、ホームの課題等を議題として提示してみる等を検討頂き、運営推進会議の開催意義を明確にしながらい進捗頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の担当の方々とはその都度訪問し何かあった場合は相談、ご助言をいただいている。運営推進会議を通して現状を伝えている。福祉事務所等の協力体制を図りスムーズな生活保護受給申請へ繋げている。	管理者は相談に役場に出向き、助言を得たり、感染症へのアドバイスなどを得ている。自宅での生活困難者の入居相談や入居可能かの問い合わせ(生保)による入居等もあり、入居者を取り巻く関係機関との協力関係を築いている。また介護認定更新を代行し、訪問調査時に立ち会い情報を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に全職員が身体拘束について意識しながら業務にあたっている。身体拘束についての研修会も実施している。	身体拘束適正化委員会で話し合い、行動抑制(言葉)について意識を共有し、虐待等の報道により注意喚起を図っている。研修会の開催とともに、不適切ケアチェックリストにより状況を把握している。新しい入居者には感知センサーを使ってみることを説明し、入居者の動きを把握したうえでセンサーを中止するとしている。	無断外出については、所在確認の徹底とともに、職員の手薄時間帯のケアについての話し合い等を検討頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を実施すると共に職員のストレスケアに努めて、日頃のケアについて振り返る機会を設けている。職員のストレスケアを通してより良いケアの提供を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス等については本部から職員会議に出席出来る際は、職員へ随時説明と理解を図る場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に疑問点を聞きやすいよう時間をかけ説明している。また、改定時も書類を使い分かりやすいよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症対策で家族会が開催できず対面で話す機会は減った。電話連絡した時や面会時にご意見をいただいている。2か月/1回担当者よりご様子を記入した「ご家族への手紙」を継続送付している。	感染対策として家族の面会は玄関先での窓越しや交流スペースでの窓越しであるが、訪問時捉え情報を発信している。家族から面会への問い合わせ等はあるものの、意見等は出されていない。家族宛に文書から写真として顔(表情)へと変更したことで家族の安心に繋げている。ホーム内外の苦情相談窓口及び第三者委員を明確にしている。	家族も対面での面会が早期に出来る事を望まれていることと推測され、まずは家族同士が集まる機会を作っていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話しやすい環境づくりに努め、それぞれの意見や話が聞けるよう取り組んでいる	管理者はケアに入りながら、職員とのコミュニケーションを図り、職場会議のなかで意見交換を行い、申し送り時間について検討する等、職員が意見を出せる環境が働き意欲に繋げている。法人の本部も毎月会議に参加し、ホームの現状把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状、コロナ禍でもあり開催が難しい状況の場面もあるが通常では毎月職員会議に本部から社長が参加され、ホームの現状把握に努められている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では年間スケジュールに沿って研修を行っている。施設外の研修は参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策もあり頻りに訪問する機会は減っている。その都度役場へ出向きアドバイスを受け施設の資質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を共有し、入居初期は、こまめに声掛けを行い、また統一したケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談、訪問でご家族、ご本人様と会い状況把握やケアへの意向などを確認する。職員に対しては情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに朝礼等の時間を利用しながらカンファレンスを行い必要な支援を職員で話し合い情報共有、統一したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が出勤時には、ご利用者お一人お一人にあいさつをして1日の始まりの関係作りに心掛けている。ご利用者様の想いや考えを尊重し、出来ることはしていただいている。家庭的な環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを受け止めともに本人様を支えていくという思いを大切に支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症状況をみながら、窓越しでの面会にて対応している。外出等は行っていない状況。	入居者の“一度家に帰ってみたい”との思いに、介護タクシーを利用して自宅まで出かけた方はおられるものの、外出は難しい状況にある。ホームで出来ることとして父の日・母の日、こどもの日、七夕短冊作り、夏祭り、敬老会等入居者が今まで行われていた慣習等を継続して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	ご利用者同士の相性を見極めテーブル 席の配置を考慮している。トラブル等が 発生した場合は間に入り孤立しない等に 支援している。居室で過ごされるの好き な方は、見守りや声掛けを定期的に行っ ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際は、状況を把握し、ご家族 への電話等で連携を取っている。状況に ついては、その都度職員には報告してい る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	普段の生活の中で、その人の話されたこ とを記録に残し状況把握に努め、日々生 活環境の改善に取り組んでいる。	日常生活の中で、入居者のしたいこと等を把 握し、ホームで思いを実現させている。意思 疎通困難や発語は難しくても、職員は表情や 仕草等を推測し、本人本位になるよう支援し ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご利用者、ご家族、担当ケアマネー ジャー、利用されていたサービス事業所 等関係機関から情報収集し、本人様の 状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ご利用者様のこれまでの生活や嗜好等 の情報収集し個人を尊重しその人にあっ たケアや趣味の提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご利用者様ごとに担当職員がおり、何か 気づいたときはユニット間や全体で話し 合い、状況に応じて専門機関に相談し、 その都度対応している。ご家族様へは電 話やお手紙で相談、報告をしている。	担当職員の気づきや観察結果等をもとに話 し合い、短期目標を実践度合いで評価し、短 期目標が達成すると再度アセスメントをおこ ない、新たな目標を作成している。カンファ レンスにより課題点等を全員で話し合うととも に、モニタリング(計画作成担当者が作成)を 各担当職員に振り分けることとして全員が介護 計画に関わることで日々のケアに反映させて いる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の経過記録等を通じ経過観察することで心身の管理や変化に気づく事が出来る。介護・看護連絡ノートを活用し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対してその都度対応している。面会制限が長く、ご家族様とのコミュニケーション不足もあり柔軟な対応に取り組む必要がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区のボランティアの方々にお声かけはいただいております。感染症対策を講じた上で、今後施設の行事等でお世話になりたい。感染症対策を講じた上で、外部との交流の場をふやしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より健康管理については、2週間/1回の訪問診療で対応しご家族へ報告している。主治医と連携し、必要時専門医への医療が受けられるように支援している。主治医の看取りケアへの理解や緊急時の対応など理解を得て協力を頂いている。	協力医療機関をかかりつけ医として訪問診療を採用している。各ユニット毎に2週間置きの訪問とすることで、毎週主治医の来訪があり心配な事案はすぐに相談できる体制である。医療ノートを活用し、診療内容の共有化や日々の職員の気づきや入居者の訴えを看護職員に報告することで異常の早期発見や対応に反映させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴介助や日常生活の中で、ご利用者様の身体的状態を観察し、きずき、ご利用者様からの訴えを看護師へ伝えたり医療ノートを作成し個々の利用者様への適切な対応、受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になってからの医療機関との連携はとれている。ホームでの生活状況を伝え、入院中も医療機関とのやりとりに努め、早期に退院できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームにおける医療面で出来ること、できないことの説明をしている。重度化した場合や看取りになった場合の説明もしている。	重度化及び終末期について指針をもとにした説明とともに、ホームで出来る支援について話している。入居者の状態変化に伴い、必要な時点で主治医による説明と家族の意向を確認し、最期までホームでの生活を希望される場合には思いに沿うこととしている。看取り期にあっても、入居者や職員の声を聞きながらの食事や、主治医及び訪問看護と連携しながら最終章を支援している。看取りを終えてカンファレンスを開催し、入居者を偲んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に研修会を通して初期対応の訓練や急変時の対応を全職員が学ぶ機会を設けて実践に役立てている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災を想定した避難訓練の実施。消防器機点検を業者に依頼し何ときでも使用可能な状態にしている。災害発生時に備え食材は常に備蓄している状態である。	防災業者立ち会いによる夜間想定火災訓練を実施し、地区の防災連絡伝達訓練に参加している。有事に備え業者による消防機器検査や備蓄を常備し賞味期限等を確認して入れ替えている。期限が迫ったものについては、皆で消費しており、珍しさに入居者が喜ばれるとのことである。	地域の区長等にも訓練の様子を確認してもらうことで地域住民の安心感に繋げて頂きたい。また備蓄については、リストを作成し、食備蓄の量や賞味期限をチェックできるよう検討頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に敬意をもって接しているが、プライバシーや言葉かけで慣れが出ている時もある。	職員は入居者との関わりの中で、言葉がけ等に多少慣れが生じることがあると感じており、和気藹々とした中にも節度あるケアに努めることとする。研修会を行い、守秘義務や個人情報について認識を新たにし、ホームページや広報誌の作成に当っては家族と同意書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様がしたいことを確認しながら決めて頂いている。着替えの衣類等もできるだけお聞きしながら選んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のタイムスケジュールはあるが、その人のその日の状態、状況に合わせて過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容をはじめ、季節に合わせた服やご本人様の好みや考えを確認しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段のお食事、行事時のお食事職員手作りで提供している。行事食には季節感を表し職員も一緒に食事をしている。お手伝いは片付けのお盆拭きをお願いしている。	食事は調理専任者が食材選びから調理までを担当し、入居者もお盆拭き等に取り組まれている。職員は普段の会話の中で入居者の希望を聞き取りし、献立に反映させる等献立を臨機応変に変更できるメリットも手作りだからこそである。毎食手作りにこだわり、家族からの差し入れ野菜等を活用しながら作る食事は入居者には好評であり、武蔵ヶ丘通信の中で、行事食等も開示している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や水分にトロミをつける等その人に合わせている。毎食の食事量の把握し状態変化に気づけるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前にうがいを行い、レク時には口腔体操を実施している。訪問歯科の指導もありながらお一人お一人に合った口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘の予防に個々にヤクルトやヨーグルト、牛乳など乳製品を食事以外に取って頂いたりしている方もいる。ご本人様の排泄パターンを把握し、声かけをしている。	入居者個々の排泄チェックリストによりパターンを把握し、声掛けや誘導により 日中はトイレでの排泄を基本として支援している。夜間帯はオムツに変更したり、排泄用品の大きさ等を検討し適切な用品を使用している。また、ポータブルトイレの利用もあるが、自らトイレを使用される方には、自立した排泄の継続や安全性に配慮して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、個々に応じて毎朝麦茶や牛乳、ヤクルト、ヨーグルトを摂っている。また体操をうながしたり腹部マッサージなど適宜行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は設定しているが、機械浴を導入しすべての方に入浴を楽しむことができるよう支援している。ゆず湯等季節湯を実施している。	入浴は週2回を基本に午前中を中心に支援している。新たに機械浴を導入したことで、一般浴が難しい入居者も浴槽にゆっくり浸かることが出来ている。体調によっては入浴が負担になる場合もある事から清拭で対応し、入浴を拒否される場合も納得が得られない時には清拭や更衣により支援している。子どもの日には菖蒲湯、冬至には柚湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう気をつけているが昼間休息するなど、ご本人様の状況に合わせて対応している。寒冷時は全室床暖房使用し室温調整行い呼吸器系疾患のある方などは加湿器使用して加湿に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時はダブルチェックを行い服薬ミスがないよう注意を払っている。薬の効能や副作用については薬局からの情報で確認行い個人のファイルで管理している。御家族へ服薬指導報告書をお渡ししている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況に合わせて洗濯物たたみやお盆拭き等手伝いをして頂いたり、塗り絵、折り紙、カラオケ等楽しんで頂けることを取り入れながらし生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策もあり外出する機会は減った。感染状況を見ながらではあるが他科受診の際にご自宅を気にされているご利用者をご自宅までドライブがてら外出も行った。	外出の規制もある中で、専門医への受診も外出の機会として捉えている。自宅を気に掛ける入居者と受診後に立ち寄り、変わりゆく周辺の様子を見て「このあたりは畑だった…」とつぶやかれている。	コロナ感染症対応が緩和されてきており、家族の訪問時に散歩をお願いしたり、入居者の行きたいとの思いを引き出しながら、外出する機会を支援されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルが無いようご利用者の預り金はホームで管理しているが、ご家族様の同意のもと個人でお金を持たれる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染症対策で窓ごし面会を行ってはいるが面会を制限している状況。ご利用者の希望によりご家族への電話や手紙のやり取りの支援をしている。リモート面会も継続している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは掲示板等、四季折々の模様替えを行い季節を感じていただいている。また、お花を飾ることでご利用者たちの笑顔がよく見られている。安全に生活していただけるよう環境整備にも心がけている。	共有空間は温湿度管理や掃除の徹底により、入居者が過しやすいように工夫している。行事担当者が主になり季節の飾りを壁面に施し、職員が持参した生花が季節を醸し出している。テーブル配置はほとんど変えず、入居者が戸惑われること無く過してもらおうよう配慮している。	玄関先には職員が手入れした草花が訪問者や行き交う住民の目を楽しませている。今後、入居者の役割として職員と一緒に水やりをお願いしてみる等検討頂き、入居者の活動の場を広げてもらいたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルやリビング、ソファ等相性を考慮しテレビ鑑賞や会話等、気の合った仲間で楽しめるよう努めている。また思い思いの場所で過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には家族との写真やスタッフとともに作った作品を飾っている。また居室室内は、家具の配置を考慮し、ご本人様の馴染みのあるものを飾り落ち着ける空間作りを行っている。	入居時に持込みの品について説明し、自宅などで使いなれた馴染みのものや日用品等を依頼している。家具についてはハンガーラックに足を取られ転倒されたケースがあり控えてもらっている。入居者によっては衣類を多めに持ち込んだり、家族写真や誕生日の写真、自身の作品等を飾り付けられている。昼食後は居室で休息される様子も確認された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の安全を確保しながら、本人様の得意なこと出来る部分を活かしたケアに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600096	
法人名	株式会社 かいごのみらい	
事業所名		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北1丁目8-1	
自己評価作成日	令和5年3月8日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝礼に際に唱える「チーム力を高め、豊かな人間性と認知症介護のプロとしての高度な知識・技術をもって、ご利用者の尊厳を守り、希望に満ちた生活を送れるよう自立支援を推し進めます。」を念頭にご利用者が家庭的な雰囲気の中で共同生活を通して、毎日笑顔や笑い声が絶えず元気に暮らせるように職員一人一人が意識を持ちながらケアを心掛けています。残念ながら現在もコロナ感染対策として面会は、窓越し面会、リモート面会を継続しておりご家族には不自由な思いをおかけしているような状況です。運営推進会議をはじめ地域の方々との関りも同様な状況であります。その中でも、ご家族宛の定期的なお手紙に関しては、表情がわかりやすいように写真を多めに使うなどしながら、できるだけほっとして頂けるように努めています。平常時に戻ればご家族との交流の場を増やしたり、地域との繋がりを大切にし信頼して頂ける施設作りに努めて行きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心・安全で心地よい時間の提供」「ご利用者の人格尊重」「自由で自分らしくいられる介護の追及」の理念を持って毎朝、朝礼時には御社の経営理念を唱和し全職員理念の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策で訪問することや来ていただくことは行っていない状況。定期的な地区の除草作業へは参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが終息し平常時に戻れば地域の方々を招いて敬老会等を開催する。また地域の催事やふれあいサロンなどに出向きご利用者との交流を図る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策で対面式での会議はなかなかできていないが、その間も書類配布を行っており情報交換に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の担当の方々とはその都度訪問し何かあった場合は相談、ご助言をいただいている。運営推進会議を通しても現状を伝えている。福祉事務所等の協力体制を図りスムーズな生活保護受給申請へ繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に全職員が身体拘束について意識しながら業務にあたっている。身体拘束についての研修会も実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を実施すると共に職員のストレスケアに努めて、日頃のケアについて振り返る機会を設けている。職員のストレスケアを通してより良いケアの提供を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス等については本部から職員会議に出席出来る際は、職員へ随時説明と理解を図る場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に疑問点を聞きやすいよう時間をかけ説明している。また、改定時も書類を使い分かりやすいよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症対策で家族会が開催できず対面で話す機会は減った。電話連絡した時や面会時にご意見をいただいている。2か月/1回担当者より様子を記入した「ご家族への手紙」を継続送付している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話しやすい環境づくりに努め、それぞれの意見や話が聞けるよう取り組んでいる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状、コロナ禍でもあり開催が難しい状況の場面もあるが通常では毎月職員会議に本部から社長が参加され、ホームの現状把握に努められている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では年間スケジュールに沿って研修を行っている。施設外の研修は参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策もあり頻繁に訪問する機会は減っている。その都度役場へ出向きアドバイスを受け施設の資質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を共有し、入居初期は、こまめに声掛けを行い、また統一したケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談、訪問でご家族、ご本人様と会い状況把握やケアへの意向などを確認する。職員に対しては情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに朝礼等の時間を利用してながらカンファレンスを行い必要な支援を職員で話し合い情報共有、統一したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が出勤時には、ご利用者お一人お一人にあいさつをして1日の始まりの関係作りに心掛けている。ご利用者様の想いや考えを尊重し、出来ることはしていただいている。家庭的な環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを受け止めともに本人様を支えていくという思いを大切に支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症状況をみながら、窓越しでの面会にて対応している。外出等は行っていない状況。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を見極めテーブル席の配置を考慮している。トラブル等が発生した場合は間に入り孤立しない等に支援している。居室で過ごされるの好きな方は、見守りや声掛けを定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際は、状況を把握し、ご家族への電話等で連携を取っている。状況については、その都度職員には報告している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、その人の話されたことを記録に残し状況把握に努め、日々生活環境の改善に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、担当ケアマネージャー、利用されていたサービス事業所等関係機関から情報収集し、ご本人様の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様のこれまでの生活や嗜好等の情報収集し個人を尊重しその人にあったケアや趣味の提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様ごとに担当職員がおり、何か気づいたときはユニット間や全体で話し合い、状況に応じて専門機関に相談し、その都度対応している。ご家族様へは電話やお手紙で相談、報告をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の経過記録等を通じ経過観察することで心身の管理や変化に気づく事が出来る。介護・看護連絡ノートを活用し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対してその都度対応している。面会制限が長く、ご家族様とのコミュニケーション不足もあり柔軟な対応に取り組む必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区のボランティアの方々にお声かけはいただいております。感染症対策を講じた上で、今後施設の行事等でお世話になりたい。感染症対策を講じた上で、外部との交流の場をふやしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より健康管理については、2週間/1回の訪問診療で対応しご家族へ報告している。主治医と連携し、必要時専門医への医療が受けられるように支援している。主治医の看取りケアへの理解や緊急時の対応など理解を得て協力を頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴介助や日常の生活の中で、ご利用者様の身体的状態を観察し、きずき、ご利用者様からの訴えを看護師へ伝えたり医療ノートを作成し個々の利用者様への適切な対応、受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になってからの医療機関との連携はとれている。ホームでの生活状況を伝え、入院中も医療機関とのやりとりに努め、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームにおける医療面で出来ること、できないことの説明をしている。重度化した場合や看取りになった場合の説明もしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に研修会を通して初期対応の訓練や急変時の対応を全職員が学ぶ機会を設けて実践に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災を想定した避難訓練の実施。消防器機点検を業者に依頼し何ときでも使用可能な状態にしている。災害発生時に備え食材は常に備蓄している状態である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に敬意をもって接しているが、プライバシーや言葉かけで慣れが出ている時もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様がしたいことを確認しながら決めて頂いている。着替えの衣類等もできるだけお聞きしながら選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のタイムスケジュールはあるが、その人のその日の状態、状況に合わせて過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容をはじめ、季節に合わせた服やご本人様の好みや考えを確認しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段のお食事、行事時のお食事職員手作りで提供している。行事食には季節感を表し職員も一緒に食事をしている。お手伝いは片付けのお盆拭きをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や水分にトロミをつける等その人に合わせている。毎食の食事量の把握し状態変化に気づけるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前にうがいを行い、レク時には口腔体操を実施している。訪問歯科の指導もありながらお一人お一人に合った口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘の予防に個々にヤクルトやヨーグルト、牛乳など乳製品を食事以外に取って頂いたりしている方もいる。ご本人様の排泄パターンを把握し、声かけをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、個々に応じて毎朝麦茶や牛乳、ヤクルト、ヨーグルトを摂って頂いている。また体操をうながしたり腹部マッサージなど適宜行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は設定しているが、機械浴を導入しすべての方に入浴を楽しむことができるよう支援している。ゆず湯等季節湯を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう気をつけているが昼間休息するなど、ご本人様の状況に合わせて対応している。寒冷時は全室床暖房使用し室温調整行い呼吸器系疾患のある方などは加湿器使用して加湿に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時はダブルチェックを行い服薬ミスがないよう注意を払っている。薬の効能や副作用については薬局からの情報で確認行い個人のファイルで管理している。御家族へ服薬指導報告書をお渡ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況に合わせて洗濯物たたみやお盆拭き等手伝いをして頂いたり、塗り絵、折り紙、カラオケ等楽しんで頂けることを取り入れながらし生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策もあり外出する機会は減った。感染状況を見ながらではあるが他科受診の際にご自宅を気にされているご利用者をご自宅までドライブがてら外出も行った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルが無いようご利用者様の預り金はホームで管理しているが、ご家族様の同意のもと個人でお金を持たれる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染症対策で窓ごし面会を行ってはいるが面会を制限している状況。ご利用者の希望によりご家族への電話や手紙のやり取りの支援をしている。リモート面会も継続している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは掲示板等、四季折々の模様替えを行い季節を感じていただいている。また、お花を飾ることでご利用者様たちの笑顔がよく見られている。安全に生活していただけるよう環境整備にも心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルやリビング、ソファ等相性を考慮しテレビ鑑賞や会話等、気の合った仲間を楽しめるよう努めている。また思い思いの場所で過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には家族との写真やすっふともにした作品を飾っている。また居室内は、家具の配置を考慮し、ご本人様の馴染みのあるものを飾り落ち着いた空間作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の安全を確保しながら、本人様の得意なこと出来る部分を活かしたケアに努めている。		